

Anti human SHP mouse monoclonal antibody

SHP: Small heterodimer partner

製品コード PP-N7519-00

Clone No. N7519

Lot. A-1

濃度 1mg/mL

容量 100 μ L

Ig class G1

Nomenclature NR0B2

Genebank L76571

由来 ヒトSHP(1-257 aa)の大腸菌由来のリコンビナントを免疫した BALB/c マウスの脾臓細胞と、マウスミエローマ細胞 (NS-1) を融合して得たハイブリドーマを、BALB/c マウスに接種して得られた腹水。

特異性 ヒト SHPと特異的に反応する。その他の動物種との交差反応は未検討。

精製法 硫酸塩析法

溶媒 生理的食塩水
防腐剤として0.1% NaN3添加

FOR RESEARCH ONLY. NOT FOR USE IN HUMANS.

本製品は研究目的のみで使用することができます。人やそのほか動物の疾病診断、治療・予防に使用することはできません。
研究目的以外で使用する場合は、あらかじめ弊社にご相談ください。

Application 使用濃度は実験にあわせて至適化が必要です。

Western Blot 可
参考使用濃度 1 μ g/mL

非還元 Western Blot 可
参考使用濃度 3 μ g/mL

ELISA 可
参考使用濃度 0.5 μ g/mL (A280=1)

免疫沈降 未検討
参考使用濃度 -

Supershift Assay 未検討
参考使用濃度 -

クロマチン免疫沈降 未検討
参考使用濃度 -

免疫染色 未検討
参考使用濃度 -

保存方法 1ヶ月程度の保存の場合は、2~8 $^{\circ}$ Cで保存可能です。長期保存の場合は、抗体を小分けした上で、-20 $^{\circ}$ C以下での保存をお勧めします。また、凍結融解を繰り返すと、抗体が劣化し、本来の性能が得られない場合があるため、お避けください。

参考文献

備考 溶媒に含まれるNaN3は、鉛や銅と反応し爆発性化合物を形成する恐れがあります。廃棄の際には大量の水と一緒に希釈して廃棄してください。

MADE IN JAPAN

Aug 29, 2006

【販売元】

フナコシ株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目9-7
TEL : 03(5684)1620 FAX : 03(5684)1775
<http://www.funakoshi.co.jp>

【製造】

株式会社 ペルセウスプロテオミクス
〒153-0041 東京都目黒区駒場4-7-6
<http://www.ppmx.com>

